資料３

「第2回うるおい部会」整理メモ　～文化・スポーツを切り口として市民生活をうるおいあるものに～

	文化	両分野共通	スポーツ
現状と課題について	・　伝統行事，伝統産業などをどう承継していくかが問題。 ・　芸術団体が困っているのは場所代が高いこと。	・　市が多くの取組をしていることが市民に知られていない。 ・　今後必要な施設の維持費を曖昧にしておくと維持ができなくなる。	・　ハード面（スポーツ施設利用）については，市体育協会による指定管理導入等により改善・充実。 ・　ソフト面では，スポーツする子以外も含めた健康上のことなど何かシステム的な取組が必要。 ・　企業におけるスポーツの価値も，広告・ＰＲだけでなく，社会貢献活動につなげることが進められている。
政策の基本方向について	・　小さい頃から文化や歴史，伝統行事を知る，触れる，体験し，感動する取組が必要。 ・　京都の文化を国，府，市，あらゆるところで支える必要がある。後継者を育成する制度の充実が必要。 ・　残してよいのか疑問に思う伝統は議論し，次世代に良くない思いは伝えないという意思決定も大切。 ・　「もったいない文化」，「しまつの文化」といった暮らしの中でたくわえた文化も考える必要がある。	・　文化・スポーツについては，プライオリティの議論に乗せず，子ども，環境やコミュニティなど色々なものとの関連で位置づける必要。それぞれの光るものを出していく。 ・　うまく知らせるということが大事。市の情報発信だけではなく，受け口をセットで考える必要がある。 ・　お金の議論は，文化，スポーツ，環境という「うるおい」の面でも考える必要がある。 ・　今，１００年後に残るものがつくれているのかというところも考えねばならない。 ・　文化，スポーツ施策を進めるうえで，男女共同の視点や，社会的弱者の立場からも考えていただきたい。	・　スポーツを通じてルールの必要性を学ぶなど学校教育の場でのスポーツの充実が必要。 ・　トップアスリート育成と，市民の健康のためのスポーツの切り分けも必要。 ・　地域住民のスポーツの場として小学校をうまく活用できないか。 ・　スポーツには参加しやすい面があり，地域社会に果たす役割が大きい。 ・　スポーツに関する栄養学など保護者にまとめて情報発信する必要も。 ・　スポーツと環境を密着させるなど，様々にリンクすることを強みに。
市民と行政の役割分担と共汗について	・　市民が文化の主体。行政は税を徴収し正しく配分することに尽きる。	・　市民と協力する局面での行政の役割は，中立化や信用。サポートや協働のルール，計画がより大切になる。	・　自治体が中心になり，ネットワークを広げ，子どもを安全・安心に育成する仕組み構築ができないか。 ・　地域，企業など各セクターの自主的な取組をネットワーク化する努力が自治体に求められる。 ・　企業の社会的責任とスポーツを結びつける取組について企業に発信を。
10年後に目指すべき姿について	・　施設の稼働率を一つの指標として議論いただく必要があるのでは。 ・　芸術大学における修士課程及び博士課程への進学者がその後何をしているのかが問題では。 ・　評価指標については，「量」より「質」	・　施設を使うスポーツだけでなく，河川敷や山，文化も含めて子どもの育成を。	・　子どもが育った10年後に京都の未来も深く関わる。未来を担う子どもを中心にした施策に今動き出す必要。